

八学大人工芝グラウンド完成 サッカー部員ら感触確認



人工芝サッカー場の完成を記念し、親善試合に臨んだ選手たち
=7日、八戸学院大人工芝グラウンド

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)が、同市美保野の八戸学院大敷地内に整備を進めてきた人工芝のグラウンドが完成し、7日に竣工を祝した親善試合が行われた。系列の高校や大学のサッカー部などに所属する選手たちが、真新しい芝生の上で初めてプレーし、新たな練習拠点の感触を確かめた。人口芝のグラウンドは、

サッカー場と、サッカー、ラグビー兼用の2面で、それぞれ縦120m、横70m。ヤシの実のチップを敷き詰めており、天然芝に近い柔らかさで、選手に負担が掛からないのが特長だ。陸上の助走路も整備した。この日は、竣工を祝う式典後、幼児や小学生を対象としたサッカー教室などを開いたほか、J3のヴァンラーレ八戸のトップチーム

も訪れ、同大男子サッカー部と親善試合を行った。同部の堤賢太主将は「ピッチで練習を重ね、インカレに出られるよう頑張りたい」と意欲を見せた。ヴァンラーレで活躍するMF新井山祥智は母校の施設の充実を喜び、「いい練習場で頑張って、いい成績を残してほしい」と後輩にエールを送った。

(林泰輔)